



郷土を愛し、地域の復興・発展を支える担い手に ～復興教育推進週間～

平成28年の台風10号豪雨被害を教訓に、岩泉町では、8月30日を「岩泉町防災・減災の日」と定めています。本校でも、この日にあわせ、8月下旬から9月上旬にかけて、各学年で復興副読本を活用した学習を行った他、外部の方を講師に招いたさまざまな学習が行われました。

キャリア教育講演会「冒険して、進化を手に入れよう」

いきる
Live

8月23日（金）5, 6年生を対象にキャリア教育講演会が開催されました。

講師は、本校卒業生にして、元リーガー、元グループジャ盛岡監督、現在、富士大学経済学部経営法学科准教授の鳴尾直軌先生。そして、この日の講演テーマは、「冒険して進化を手に入れよう！」でした。夢をかなえるために、大好きなサッカーに打ち込み、自らの行動に反対しそうな人に応援してもらうためにどうしたらよいかを考え、日々の暮らしを見つめ直し、夢を応援してもらう環境を切り拓いたご自身のエピソードを交え、「日々の暮らしを大切に、自ら進んで行動し、成長を続けていこう」というメッセージのこもった熱いお話をいただきました。

- ・「自分の行動は、いつも自分で決めている」
- ・「夢をつかめるか、その答えは自分の中にしかない」
- ・「自分の言葉と行動は、自分と仲間の夢を支えている」

2学期のスタートにあたり、一人ひとりの気持ちのスイッチを入れるたくさんの素敵な言葉をいただきました。



ジオラマ防災教室「自分の命を守るために」

そなえる
Prepare

8月28日（水）6年生を対象に岩泉高校2年生による「ジオラマ防災教室」が開催されました。

教室では、まず、高校生のアドバイスを受けながら、町内中心地を立体的に表したジオラママップを作りました。そして、高校生がジオラママップで山や川の位置を示しながら、一緒に町内で川の氾濫や土砂災害の危険がある場所や避難場所を確認していました。

後半には、グループごとに仮想の災害に対しての避難行動を考えるというグループワークを行いました。

参加した6年生の子どもたちからは、

「ジオラママップをみて、急斜面や川の付近が危ないと思った。」

「防災マップを確認したり、備蓄をしたりして命を守りたい。」

という感想が聞かれました。



心理学に学ぶ防災「防災共創授業」

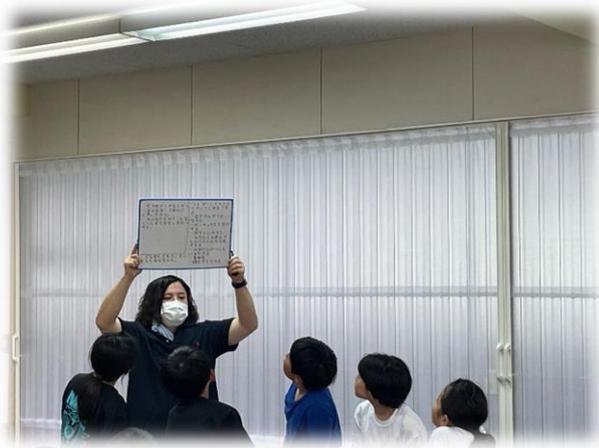
かかわる
Involve

8月30日（金）東北大学災害科学国際研究所 齋藤玲助教をお招きし、4，5，6年生を対象に防災共創授業が行われました。

「災害時に周りに合わせることは、プラスとマイナスに働くときの2つがある。」

齋藤先生に教えていただいたのは、周りの人の考えや動きに合わせて自分も行動してしまう「集団同調性バイアス」という心理状態です。災害のときにこの心理がマイナスに働くと、危険な場所に集団で留まり、被害に遭う可能性が高まるということです。子どもたちは、災害のときにも自分の考えをしっかりともち、伝えることの大切さを学んでいました。

そして、このことは災害時のみでなく、日常生活にもいえることだと思います。正しい判断ができるように知識理解を深め、自分で判断して行動できるようになってほしいと思います。



土砂災害に備える「土砂災害出前授業」

そなえる
Prepare

9月4日（水）岩泉土木センターの皆様を講師にお迎えして、4年生を対象に「防災出前授業が行われました。」

授業では土砂災害の映像を見て、恐ろしさを改めて確認したほか、岩泉町のハザードマップを見返して、自分たちの住む町の危険な箇所や、いざという時の避難経路などを確かめました。

そして、教室での授業のあとは、山や川、町を表わした模型を使って土砂災害を再現。災害が発生するメカニズムや、砂防ダムの効果が分かりやすく説明され、避難することの大切さが強調されました。

職員の方からは、「上流側に砂防堰堤があるから、絶対安全ということではないので避難をしてください。」と、避難の重要性が再確認されました。

また、学校の裏にある砂防ダムも見学し、子どもたちは授業で学んだことを振り返りながら、防災に対する意識を高めていました。

